

御国の称賛を受ける者！！聖霊とともに 欺くな

「素直に生きる道 HS に満たされる」使徒5:1~11 ヨハネ19:38~40

優先順位を間違えない・決断すること

メッセージの冒頭で動画を見ました。お酒を飲み、酔いつぶれて貧乏な男性が「お酒止める」「仕事する」と今まで逃げていたこと・できなかったことを、決断して実行していくと、お金も貯蓄出来て最後は大統領になるという外国のCMでした。私たちは、正しい事・やるべきことが分かっているでもそれを決断して実行することがなかなかできません。私たちが、神さまのことを信じてと告白したその時から、内側には聖霊さまが宿られて満たされます。この満たしを受けた私たちがやるべきことは、この聖霊を欺かないことです。つまり誘惑に負けないことです。神さまに示された道を歩もうと決断すると、悪魔の誘惑の声が聞こえてきます。それに対して聖霊さまは「それは違う。こっちだよ」と教えてください。それなのに、聞こえていないかのように自分を欺き聖霊さまを欺いてしまうことの罪について考えていきたいと思えます。

聖霊を欺いてはいけない

先週、ペンテコステ礼拝をおこないましたが、ペンテコステ後の弟子たちは、心も思いも一つにして一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、自分の意志ですべてを共有していました。そんな生活にアナニヤとサツピラが登場します。彼らは自分の畑を売って、その売り上げの一部を自分たちのために取っておきました。ですが、みんなには「これで全部です」と言ったのです。どうしてこのようなことをしたのか…周囲から良い人に思われたい。でも自分たちのため、もしもの時のために取っておきたいと思ったのかもしれませんが。自分たちの欲のために聖霊を欺いたのです。この使徒の働きの冒頭にこの記事が書かれたのでしよう。

聖霊さまは、私たちの人生の中で決断の時に必ず語りかけられます。その語りかけに素直に聞き従っているのでしょうか。ほとんどが、本当は素直に聞き従った方が良く正しいことを分かりつつ、素直になれず、自分の考えを優先させて聖霊さまを欺いてしまうのです。要するに自分と戦って負けているのです。その結果、私たちは祝福を全部失っているのです。アナニヤとサツピラにはチャンスがありました。「この値段で売ったのか？その通りか？」と聞かれた時に素直に本当のことを言うチャンスがあったのです。

みなさん自分たちはどうですか？決断の時、このように聖霊さまが語りかけてくださっているのを、みんな経験しているはずですが。私たちは、弱者です。ですから誘惑に負けてしまうことはあります。そこで聖霊さまは「いや、こっちだ」と正しいを示された時に「ごめんなさい」と悔い改めなければ、聖霊さまを悲しませることになってしまうのです。

貪りは偶像礼拝の罪

この記事では、欲の中心として富（マモン）が出てきます。欲は生きていくうえで必要なものです。しかし、人が罪を犯してしまい、呪いの中で生きていく中で、自分の能力を生かして、汗水を流し労して代価（富）を得て生活するようになりました。だから聖書の中で欲がお金のたとえに使われるのです。欲の中心である富（マモン）は人間の普遍的危機と言われています。富（マモン）が、きちんと管理できれば良いのです。富（マモン）=罪ではありません。神さまからもらった賜物である富を自分のものとして扱い、正しく管理することができないことが罪なのです。この罪は富を用いて、貪りを引き起こします。

富が裕福の象徴・安心の材料となって、失うことを恐れさせるからです。さらに他人に与えることより、自分を裕福にする富に執着してしまう…この貪りを聖書では「偶像礼拝」と言っています。「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません（ルカ12:13）」と言っています。貪りによって富（マモン）に執着し偶像礼拝している限り、人生で幸せを得ることはできません。

アリマタヤのヨセフとニコデモ

ヨハネの福音書19章38節から、アリマタヤのヨセフが登場します。彼はアリマタヤの町の金持ちで、ユダヤの最高議会サンヘドリンの有力な議員、社会的地位のある人でした。イエスを十字架にかけると言った大祭司のメンバーの一人でしたが、そのことについて彼は納得していませんでした。しかし、周囲の目を気にして、ひそかにイエスさま

の弟子となっていました。しかし、イエスさまが十字架で亡くなれると、パリサイ人である自分の立場など考えないで、イエスさまの死体を取り下ろしたいと願い出て、それがきかれたのです。彼は、イエスさまの十字架の死を目の当たりにして、もう自分を欺かないと決断したのです。ニコデモも同様です。ニコデモも人目を気にして以前は夜に会いに行っていたのです。しかし、イエスさまによって人生を変えられた彼は、イエスさまのために、没薬と沈香とを混ぜたものを百斤ほども持ってきたのです。聖霊さまと共に歩むとこれほどまでに人は変えられるのです。

目的を持ち意識することの大切さ

私たちには、物事を決断するために目的を持ち意識することが必要です。ナチスの政策によりユダヤ人収容所に隔離されていたビクトール・フランクルは、ホロコーストからの生還者です。彼は、家族と共に強制収容所に収容され、父はここで死亡し、母と妻は別の収容所に移されて死亡しました。そんな彼は「想像を絶する究極の状況の中でさえ、人間として破綻せず、モラルを保ち、内面的に成長できる人間がいる」と考えていました。そして、家族を失うような状況にあっても「それでも生きる意味がある」といつも考えていました。彼の著書「夜と霧」に書かれています。

さらに彼は、本書の中で、想像を絶する究極の状況の中でさえ、人間として破綻せず、モラルを保ち、内面的に成長できる人間がいる、と語っています。「現場監督がある日、小さなパンをそっとくれたのだ。…あ のとき、わたしに涙をぼろぼろこぼさせたのは、パンという物ではなかった。それは、あ のときこの男が私にしめした人間らしさだった。そして、パンを差し出しながらかわしにかけた人間らしい言葉、そして人間らしいまなざしだった…」と本にあります。周囲の状況に流されず、欺かれず、自分の目的を持ち意識しそれを行った人が実際にいるのです。

また、韓国人の教会が北朝鮮兵から迫害に遭い、とある少女が踏み絵を踏まされそうになりました。少女はイエスさまの十字架を信じてそれを拒否し殺されかけましたが、どの兵も少女を撃つことができませんでした。さらに、この純粋な少女の行動によって自分たちの行いが本当に正しいのかを考え、迫害をやめ、この教会は迫害を免れました。聖霊さまがこの少女の心に勇気を与え、彼女はその聖霊の声に聴き従った結果、教会が救われたのです。

まとめ

アリマタヤのヨセフは、なぜイエスの死体を取りおろしたいと願い出たのでしょうか。ニコデモが財産を投げ売ってでもイエスさまのために百斤もの没薬と沈香を用意したのはなぜでしょう。それは、今までの自分を欺く人生をやめたからです。みなさんは、どうしますか。聖霊さまの声が聞こえていて何が正しいのかが分かっているのに、自分を欺いてわざと間違った行動をしてしまうことがあります。今いちど、自分の人生にそのようなことがないかを見て、十字架上のイエスさまを見ましょう。もしあるならば、もう欺かないで素直に悔い改めて、今度こそ聖霊さまの声に聞き従いましょう。